

## 第107回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和6年1月25日（木）

午後7時～午後9時

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：18名（欠席5名）

傍聴者：2名

1 開 会 佐藤所長

2 代表あいさつ 小島代表

3 行政等からの連絡事項

城山中央公園の今後について

公園課の職員より資料1に基づき説明がされた。

＜ 主な質問等 ＞ ○委員からの質問等 ●公園課からの回答

○自然を生かした公園にするということだが、小中学校の近くの立地ということもあるため、学習できる施設等の設置はできないのか。

●現計画では学習できる施設等の設置は予定していないが、公園を市民の方に利用していただく中で、意見を聞いて必要に応じて再整備を検討したい。

○公園の名称はどのように決めるのか。公募するのも良いと思う。

●現在、仮称で城山春林公園としており、春林の読み方は、公園のある地域の字（あざ）は「しゅんりん」、相模丘中学校の校歌では「はるばやし」と読んでいるため、これから地元の方の意見を聞いて決めていきたい。城山春林公園ではなく、他の名称になる可能性もある。

○中学生がジョギングできるように整備してほしい。

●現状でもジョギングで利用されており、特段ジョギングに特化した整備を行う予定はない。

○遊具などを置かず、高齢者から子どもまで利用できる、自然を生かした公園にしてほしい。

○特殊公園（風致公園）とはどのような公園か。

●自然環境の保全、享受を主たる機能と捉えた公園種別であり、自然を生かした公園である。

○道路を整備する計画はないのか。

●ない。

○できれば作ってほしい。

- 道路部局に要望として伝えておく。皆さんの意見を聞いて、より良い公園にしたい。

#### 4 議 題

##### (1) 令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返りについて

令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会について、事務局から資料2に基づき結果報告がされ、懇談会において、市と地域の話し合いの場を作ることとなっていた件については、次回まちづくり会議に市の担当者が来る予定のため、ごみステーションの設置・管理について話し合いを行うこととした。

《 主な意見 》

- ・ごみステーションについての話し合いについて、実際に問題を抱えているステーションのデータを用意して臨んだ方が良い。

##### (2) 次期城山地区まちづくり会議の構成団体について

事務局から資料1に基づき、城山地区まちづくり会議の構成団体及び選出人数について説明があった。その後、次期城山地区まちづくり会議の構成団体等について検討を行った。

《 主な意見 》 (●…委員、○…代表、▲…事務局)

- 以前から話題に上がっていた津久井JCやJA神奈川つくいについて、事務局から打診したところ、選出不可との回答であった。また、同じく構成団体の候補に上がっていた相模原城山高校については、打診した結果、前向きな回答が得られたため、正式に依頼することとしたい。
- 公募する可能性はあるのか。
- ▲現在の会則上、公募についての記載はない。もし公募をするとすると、会則の改正が必要である。
- 城山地区に思い入れのある、意欲のある人に携わってほしいので、公募も一つの選択肢として検討してほしい。
- 若い人に参画してほしいので、構成団体の分野ごとの上限人数に捉われないう、柔軟な選出方法を考えても良いと思う。
- 選出方法を変えるため、会則を改正する必要があるのか。
- ▲会則では選出団体の分野と総数30名以内という内容だけ定めて、分野別の人数については別に定めて運用していくという方法もある。
- 公募をするのか、会則を改正するのか、役員会で協議させていただき、その結果を全体会で報告したい。

## 【 結果 】

委員からの意見のあった若い人・若い人の団体について、具体的な名称等が上がりなかつたため、新たな団体としては相模原城山高校のみ依頼をすることとなった。公募等、新たな選出方法については役員会で協議し、次回の会議で報告をすることとなった。

### (3) 城山地区で具現化していく取組について

全体会では、事務局から資料4、5に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後にそれぞれ解散となる旨説明があった。

## 5 閉 会 曾根副代表

以 上

### 【全体会終了後の各部会での検討内容】

#### ●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

これまで部会で検討してきた「しろやま☆おせっかい」の取組として、まちの様子を見ながら声かけなどを行うまちかどウォッチングを小倉地区で実施したが、その振り返りを行った。また、1月27日実施予定の谷ヶ原・城山地区での実施に向けて検討が行われた。

#### 《 主な意見 》

- ・小倉地区のまちかどウォッチングについて、特に問題なく実施ができた。参加者は合計24名だった。
- ・回るコースについて、地区のいろんな表情を見ることができてとても良かった。
- ・谷ヶ原・城山地区のまちかどウォッチングについて、1月13日に下見を行った。谷ヶ原自治会館に集合し、1時間程ウォーキングをして戻ってくる予定。
- ・若葉台地区は通らず、谷ヶ原地区と城山地区を回る予定である。
- ・津久井湖記念館に寄って、少し見学させてもらうのも一つの選択である。
- ・来年度の事業計画について、地域活性化事業交付金を申請するのであれば、次回のまちづくり会議で予算案を確定させなければならないので、臨時部会を開催して内容を検討する必要がある。
- ・地域への呼びかけの方法など、おせっかいの具体的なアプローチを再度検討

する必要がある。

- ・臨時部会で来年度事業の案をいくつか出し、まちづくり会議で提案して決めたい。

### ●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

子どもたちを集めて行う取組のイメージについて、先月下旬に相談した城山地区子ども会育成連絡協議会との相談内容を踏まえ、来年度の実業実施に向けた内容の検討を行い、城山地区子ども会育成連絡協議会とともに、令和6年12月7日に事業を実施することとなった。

#### 《 主な意見 》

- ・モルックを始めとする外国の遊びやスポーツを通じた地域間・世代間交流の事業を行う予定。
- ・雨天時は体育館などの室内で事業を行ってみてはどうか。室内でもシートを敷くなど対策を講じれば、モルックはできると思う。
- ・事業の実施形態は、主催は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会、共催が城山地区子ども会育成連絡協議会となる。
- ・事業名は「あつまれ しろやまっこ」とする。サブタイトルで、モルック、フィンランドの遊び、という言葉を入れるのも良いと思う。
- ・12月7日に実施して、その後振り返りを行い、次年度に向けて新たな計画を考える必要がある。子どもたちの主体性を取り入れた内容としたい。
- ・事業実施後、アンケートを取る方法もある。もしくは、事業当日に実際に子どもたちから聞き取りを行い、子どもたちのやりたいことを吸い上げたい。
- ・事業に参加した子どもたちが、また何か集まってやりたいと感じた時に、うまく城山地区子ども会育成連絡協議会の活動に誘導し、その中で主体性を発揮できるようになれば、理想かなと思う。
- ・地域活性化事業交付金の申請に向けて、事業計画や予算を決めなければいけないので、臨時部会を開催したい。

以 上

## 第107回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期：令和4年4月27日～令和6年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会(会長)	代表	小島 盛生	出席
2		城山地区自治会連合会(副会長)	部会長①	林 和博	出席
3		城山地区自治会連合会(副会長)		中野 秀人	出席
4		城山地区自治会連合会(川尻小学校区)		井上 貢一	出席
5		城山地区自治会連合会(湘南小学校区)		西川 正行	出席
6		城山地区自治会連合会(広陵小学校区)		安西 忠義	欠席
7		城山地区自治会連合会(広田小学校区)	副部会長②	小原 貴弘	出席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会		井上 章	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会		菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		金子 宏夫	出席
11		城山ボランティア連絡会	副部会長①	宗田 眞理子	出席
12		城山地域包括支援センター		藤瀬 香理	出席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	欠席
14		城山観光協会		桜井 かおる	出席
15		相模原法人会(津久井第1支部)			
16	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		小野寺 義行	出席
17		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
18	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	欠席
19		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		高井 かおる	欠席
20		城山体育振興協議会		長田 尚	出席
21		城山地区小中学校長情報連絡会		井上 成子	出席
22		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる		片倉 理恵	出席
23	有識者		副代表	曾根 哲男	出席
24			部会長②	金子 直美	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会

出席者数 18人

②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

欠席者数 5人

# 第107回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和6年1月25日(木)  
午後7時から

会 場 城山総合事務所第1別館  
2階B会議室

## 1 開 会

## 2 代表あいさつ

## 3 行政等からの連絡事項

城山中央公園の今後について . . . . . 資料1

## 4 議 題

(1) 令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返りについて  
. . . . . 資料2

(2) 次期城山地区まちづくり会議の構成団体について . . . . . 資料3

(3) 城山地区で具現化していく取組について(部会検討) . . . . . 資料4・5

## 5 閉 会

<次回の予定>		
第108回全体会	<u>3月21日(木) 午後7時</u>	城山総合事務所 第1別館2階B会議室

## ①城山中央公園とは

### 概要

- 所在地：緑区久保沢2丁目ほか
- 都市計画決定：平成6年1月（城山町）
- 都市公園告示：未告示
- 公園種別：総合公園
- 公園面積：10.1ha  
（うち未取得 約1.1ha）

### 現行都市計画図



### 経過

年度	項目
H元	城山町中央公園基本計画策定 (15.6ha→文化ホールや保健福祉センターの建つ区域まで含めた計画)
H5	城山中央公園都市計画決定 (10.1ha→左図の赤枠部分)
H18	相模原市と城山町が合併 (未告示の総合公園として継承)
H29	都市計画公園・緑地見直し 社会情勢の変化に対応した公園に求められる機能の変化、長期未着手となっている公園の必要性を検証  ⇒・「廃止」か「存続」か検証の結果、「存続」となる ・ <b>存続の条件として、公園種別や区域を変更すること、具体的な検討を行うこととなる</b> ・公園計画について見直しを行い、樹林地保存活用方針をまとめる
R3	公社による先行取得地の買戻が完了し、公園用地となる

## ②都市計画の変更をします

### 変更内容

都市計画に定める事項	変更前	変更後	変更理由
公園種別	総合公園	<b>特殊公園 (風致公園)</b>	総合公園機能を有した公園の市内配置バランスや当該区域に求められる公園機能を踏まえ、自然環境の保全、享受を主たる機能と捉えた公園種別へ変更するもの
名称	城山中央公園	<b>(仮称) 城山春林公園</b>	公園種別変更に合わせ、広域性・拠点性を表す名称から地域性(旧字名)をイメージできる名称とするもの
位置	久保沢2丁目ほか	変更なし	
区域		<b>変更7箇所</b>	公園内道路構想の廃止及び用地取得に係る境界確定に伴う区域界の変更
面積	10.1ha	<b>10.3ha</b>	区域界変更に伴う面積の増加
備考 (主要施設)	芝生広場、散策路、駐車場、樹林地、池等	<b>樹林地、散策路、ベンチ等 休憩施設等</b>	総合公園の持つ公園機能に合わせた施設から現行区域の既存樹林地の保全や活用に沿った施設に変更するもの

## ③自然を生かした公園とします

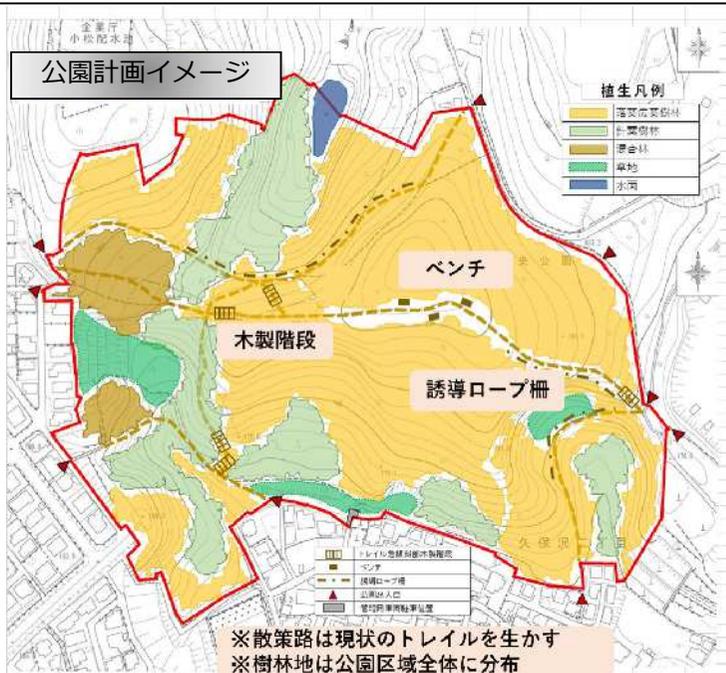
### 区域の見直し



- 区域の変更事由別整理
  - ・道路廃止に伴う現道道路界への変更箇所  
**変2, 3, 6, 7**
  - ・境界確定による地番界への変更箇所  
**変1, 4, 5**

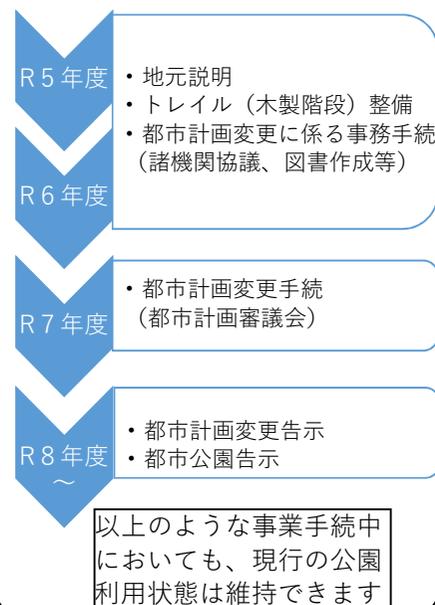
- 面積増減
  - ・編入による増加  
**変1, 2, 4~7**
  - ・除外による減少  
**変3**

### 公園計画イメージ



- 公園の在り方については、自然環境の保護や保全等の視点からゾーニングを行い、適切に管理を行います
- 主要施設は現況の地形や植生を生かした散策路と休憩施設であるベンチとします
- 住宅地に隣接する南側は林縁部干渉区域として、倒木被害及び日照被害の解消、風通し確保などを目的として、樹林地と住宅地の間に草地や低木などによる隔離空間を設けます

## ④今後のスケジュール



## 令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会 「地域の未来を語ろう with 市長」結果報告

### ■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを選定する(原則一つ)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。  
② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

### ■テーマの概要・内容

概 要	ごみ収集における地域と自治体の役割について
内 容	<p>ごみの収集方式は、ステーション（ごみ集積場所）収集と戸別収集に分かれるが、城山地区では、全域がステーション収集であり、そのごみステーションの設置・管理は利用者である地域住民が行うことになっており、自治会等の地域団体がその役割を担っている。</p> <p>しかしながら、住宅開発が進み世帯数が増加している地域においては、住宅地の開発基準との関係でごみステーションが設けられないケースがあり、既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所が複数ある。</p> <p>こうした中、自治会員以外への対応をこれまでどおり自治会が担っていくことは、自治会加入率が約50%という状況から考えても困難であり、また、ごみステーションを新設する際の土地の確保も難しく、自治会での対応には限界がある。</p> <p>そこで、ごみステーションの設置・管理を市と地域住民で協働して行うことができる仕組みづくりや、戸別収集への変更の可能性などについて懇談したい。</p>

### ■地区の取組状況等

・城山地区では、地域が一体となってごみの分別や資源回収、ごみの減量化に取り組むなど、市が進めるごみ対策に積極的に協力している。特に集団資源回収については、12の自治会のある城山地区内で、子ども会や自治会などの14団体が実施しており、この活動はごみの減量化だけでなく、地域コミュニティの醸成とSDGsの推進にも寄与している。

## ■市の取組状況等

### 市の現状・経過・取組状況（廃棄物政策課・津久井クリーンセンター）

#### ◎ごみ集積場所について

- 集積場所用地については、地域や利用者間で調整し、確保することを基本として、個別の相談にも応じているが、地域によっては、用地の確保が難しい場合もあると認識している。
- 集積場所の新設・移設等については、市民の方から相談を受けることがあるが、市民の方のご理解とご協力によりスムーズな解決ができるよう心掛けている。
- 令和5年11月17日（金）に城山地区自治会連合会会議において、小田急電鉄株との一般ごみ収集のDX化に関する実証実験について説明した際に、原宿自治会会長から「既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所がある。」との意見があり、11月20日（月）に現地及び周辺を確認した。新設には集積場所の確保等の観点から、困難であると判断したが、周辺には、ごみの排出余力がある集積場所が確認できたため、自治会長に代替案として、ごみを集積場所に排出する世帯の分散を行っていただくことを提案し、自治会として検討するとの回答を得ている。

#### ◎戸別収集について

- 今年度、収集体制の在り方等についてコンサルに業務委託を行い、必要な人員や車両数を検証するための積算や課題の洗い出しを行っている。
- 本市の一般廃棄物処理の基本方針である「第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画」の改定中であり、戸別収集については「市民ニーズに対応したごみ収集の検討」と明記している。
- 市内の約34万5千世帯（令和5年11月時点）について、一般ごみ及び資源物も含めて検討する必要があり、本市では、居住形態の約半数が共同住宅のため、こうした方々は戸別収集となった場合でもステーション収集のままとなる。
- 令和5年10月17日に相模原市環境事業協同組合と戸別収集について意見交換会を実施し、特に若い人の人材確保や収集体制等についての意見があった。
- 戸別収集は、ごみが出しやすく、排出マナーの改善が期待されるなどのメリットがある一方、住宅ごとの敷地内にごみの排出場所の確保や、カラス対策等も各戸で対応する必要がある。また、現状のステーション収集と比較して、多額の経費や多くの作業員を要する必要があるなどといったことが課題となる。

### 今後について

#### ◎ごみ・資源集積場所について

- 他自治体の事例も参考にしながら、民間事業者への働きかけなど、ごみ・資源集積場所の確保策について研究し、地域住民が安心して利用できるよう望ましいあり方について検討する。

#### ◎戸別収集について

- 本市のごみの排出量や近隣自治体の動向なども見極めながら、本市に適した収集体制の在り方について検討する。
- 高齢化に伴い、ごみ出しが困難となる方々の支援が課題と認識しており、関係機関と連携を図りながら社会情勢やニーズに対応した収集体制について検討する。

## 参 考

### ◎ごみ・資源集積場所設置数一覧

地区	大字	設 置 数
相模原市域		19,169
相模原市域（夜間収集）		1,238
津久井地域（4地区）		2,281
・城山地区		711
	小倉	19
	原宿	121
	向原	87
	川尻	37
	葉山島	13
	原宿南	59
	久保沢	75
	城山	57
	谷ヶ原	17
	中沢	20
	広田	10
	町屋	151
	若葉台	45
・津久井地区		846
・相模湖地区		371
・藤野地区		353

※ごみ・資源集積場所数については令和5年4月1日現在

### ◎戸別収集の実施状況

政令指定都市…名古屋市、大阪市、堺市、福岡市

神奈川県内…藤沢市、大和市、海老名市、（厚木市※モデル地区として実施）

近 隣 市…町田市、八王子市

### ◎戸別収集のメリット、デメリット

#### ○メリット

- ・市民が廃棄物を排出しやすい
- ・高齢者等の排出負担が軽減される
- ・事業系廃棄物を切り離すことができる
- ・排出マナーの改善が期待できる
- ・分別排出が徹底される
- ・個別の排出指導を行いやすい
- ・廃棄物搬出に対する責任の醸成が図られる

#### ○デメリット

- ・作業量が多く、収集時間がかかるため、収集費用が増大する
- ・ごみ収集車が増加するため、環境負荷が増加する（二酸化炭素排出量の増加）
- ・排出者自身が収集箱等を設置し、カラス対策等を講じる必要がある
- ・プライバシーの問題が指摘される
- ・集合住宅では、ステーション収集方式と変わらない
- ・事業者の人材確保が困難

【質問・意見と市の回答】

質問・意見	市の回答
<p>戸別収集について、緑区では高齢者が多いということもあり、導入すれば大きなメリットがあると感じる。一方、中央区・南区は共同住宅が多いため、戸別収集のメリットがあまりないのかもしれない。区ごとに区別して戸別収集を検討しているか。</p>	<p>区ごとに区別して収集体制を検討することも考えられると思っはいるが、課題も非常に多いと考えている。ただ、今後のことを考えると、固定概念に捉われず、様々な角度から検討していきたいと考えている。</p>
<p>戸別収集と現状の収集体制、経費の違いなどは試算が出ているのか。戸別収集をやっている自治体はごみ袋が有料である。高齢者が多い地域は、戸別収集のメリットがあるが、ごみ袋が有料になって負担を強いられる側面もある。市はどう考えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別収集の傾向として、ごみ袋の有料化がセットで行われているところが多いが、本来は別の話である。戸別収集にした場合、市の財政的な影響はどのくらいあるのか、課題はどんなものがあるのか、検討しているところで、今後、本市に適した収集体制のあり方を検討していきたい。それとは別に、ごみ袋有料化については議論が必要であると考えているが、どれが一番適した体制かというところは、まだ結論は出ていない。</li> <li>・現在、コンサルに業務委託して戸別収集した場合の人員や経費等の調査をしている状況で、調査結果を踏まえて算出する予定。</li> <li>・戸別収集になると作業員の動く距離が長くなるが、作業員の高齢化が進んでおり、実際に作業ができる体制が整うのか、作業員の人員も増やす必要があるため、採用できるのか、様々な検討が必要である。町田市や八王子市で実績のある事業者には現状や課題を聞き、検討していきたい。</li> </ul>
<p>ごみ収集体制の在り方の検討はいつまで行う予定か。時期的なことを教えてほしい。また、市民の意見をどのように聞いて進めていくのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、調査を行っており、データは年度末に出るので、時間をいただきたい。</li> <li>・一般廃棄物処理基本計画は令和9年度までになっているので、令和9年度まで検討を行うことになるかと思う。課題が多いので、皆さんの意見を聞いて進めていくべきだと考えている。</li> </ul>
<p>実験的にある地区で戸別収集を実証してみるとか、そのようなことは計画にあるのか。政令市なので、もっとスピード感を持ってやってほしいし、計画があれば積極的にアナウンスをしてほしい。</p>	<p>町田市、八王子市は戸別収集をやっているの、皆さんが気になるころではないかと思うが、逆に横浜市や川崎市などの大都市はやっていないという状況もある。いろいろと課題があつての選択だと考えているので、検討していきたい。特に高齢者のごみ出しは切実な問題だと考えているので、先行してやれるかどうかは議論が必要だが、なるべく対応できるころはやっていく姿勢で臨みたい。</p>
<p>ごみ収集について地域住民を巻き込んで、一緒に考える場を設けてみてはどうか。自治会に投げるだけではなく、いい仕組みを作って、話し合う場を設けてほしい。</p>	<p>ごみを集めやすく、出しやすくするためにも、市と地域の歩み寄りができる仕組み作り、対話が重要だと思うので、担当課や区役所、まちづくりセンターも一緒になって、話し合いの機会を頻繁に設けるのは重要だと考えている。</p>

質問・意見	市の回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別収集はいい話だと思うが、経費が何倍もかかるのではないかという気がしている。</li> <li>・ごみステーションの場所だが、土地代が安い地区でも、やはり自分の土地に置いていいという立派な人はいない。津久井クリーンセンターなど、市の職員はよくやってくれているが、トラブルは絶えない。公園の一角とか広い市道の一部を使用するなど、公園は公園、道路は道路ではなく、縦割りではない横の連携を密にして対応してほしい。そういう視点で考えてもらえれば、自治会も一緒になって考えることができるし、いい方向に話が進むと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園や道路を削ることが最善かどうかは検討が必要だが、縦割り行政ではなく、横の連携をしながらより良い方向を見出せるよう努力していきたい。その結果、安心してごみステーションを利用できる環境作りを実現していきたい。</li> <li>・地域の方との意見交換の場が必要であると考えているので、しっかり取り組んでいくということはこの場で約束したい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアをやっていると、高齢者からのごみ出し依頼が増えている現状がある。1回につき100円で行っているが、ごみステーションまでごみを出すのが難しいという方が多い。戸別収集は収集する作業員の人員増や負担増もあるため、お金だけでは解決できない難しい問題である。</li> <li>・広報紙に、資源ごみをリサイクルして売り払うと、9億円程度になることを知った。このお金をどのように使っているのかわからないが、自治会などへの補助金を増やして、ごみステーションの改修や新設に使ってほしい。</li> <li>・地域の方が自分の土地にごみステーションを置いても良いと思えるような、清潔な環境を整えることも必要。</li> <li>・ごみ出しの際、空気を抜いて出すなどの工夫は住民にはできるが、ボックスの購入などは住民にはできないので、ぜひごみ行政にお金を使ってほしい。</li> <li>・行政がごみ問題に取り組んでいると思っていたが、自治会が問題に直面して苦労しているということを聞いて唖然とした。自治会の加入、未加入に関わらず、行政がお金を出して対応してほしい。</li> <li>・ごみ収集のDX化は、不法投棄を助長させるように感じる。外部から来て、空いているステーションにごみを捨てる人も出てくると思うので、DX化ではなく、ごみステーションの設置などを行政が対応してほしい。京都は夜の収集なども行っているため、そういうのも参考にしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルによる資源の売り払いで9億3千万円ほどの収入があることは事実だが、その回収に倍以上の費用がかかっており、市の儲けになっている訳ではないので、廃棄物行政の一部に使っている。ごみの中には資源化できるものが入っているので、リサイクル・資源化の普及啓発に取り組んでいる。</li> <li>・夜間収集や戸別収集には課題もある。戸別収集はカラス対策などの懸念材料があるが、高齢者への対応は早々の対応が必要であると認識しているので、早く実現できるよう努力していきたい。</li> <li>・南清掃工場の金の回収について、令和3年度から始めているが、取組みを進めていきたいと考えている。売却収入から経費を引いた利益について、令和3年度は約3,700万円、令和4年度は約1,600万円である。また、パラジウムという金属の回収に向けて研究を進めているところである。廃棄物行政は注目を集めているので、全力で取り組んでいきたい。</li> </ul>

質問・意見	市の回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの減量はどこの自治体でも課題であるし、エッセンシャルワーカーの課題もある。そういったことも含めて、市で、ごみについてみんなで考えるシンポジウムのようなものを立ち上げて、行政と市民が一緒になって考えていく展望を持ってほしい。ごみとどう付き合っていくのかを市全体で考えることができれば面白いと思う。</li> <li>・行政からは、検討していくという言葉をよく聞くが、市民が参加しながら課題に向き合う取組みができれば、大きなSDGsになると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみも一つの資源であるので、循環型社会の考え方を普及させていきたい。ある会社は、コンビニなどのお店の食品で賞味期限切れのものを豚の肥料にする取組みをしていたり、これまで燃やして処分していたものを資源として活用する取組みが発達してきている。皆さんに知っていただき、理解を深めていただきたい。</li> <li>・動静脈連携という言葉があるが、今までは生産者の効率が向上してきて極まってきているが、廃棄物に関してはまだ改善の余地があるという考え方があるので、生産の過程においても廃棄物のことを考えて、効率化していく取組みが発達していくと思っている。市としても、ごみの排出者の意識を変えていく取組みも進めていきたい。</li> </ul>
<p>分別やごみの減量は地域で努力するが、ごみステーションの容量が少なくごみを出せないようでは困るので、行政がごみステーションの設置やボックスの整備をしてほしい。昨年、下九沢にあるごみ焼却場を見学したが、ごみに対しての意識も変わるので、ぜひ、焼却場を見学して、現実を見てほしい。</p>	<p>清掃工場を見学していただくことが、廃棄物に関する理解が早まる一つの方法だと思う。最終処分場なども見学していただき、ごみ分別の重要性を理解していただきたいと考えている。清掃施設課では、見学を積極的に受け入れているので、問合せをいただきたい。</p>
<p>高齢者のごみ捨てについて、現状を伝えたい。ごみステーションまで道路を渡らなくてはいけない方は、車が危ないので、朝の3時とか4時にごみ出しをしている人がいる。ごみの分別ができなくてごみ屋敷になっている人もいる。ヘルパーやボランティアなどをお願いしてごみ捨てをお願いしている人もいるが、ヘルパーやボランティアが不足しており、ごみ排出の曜日をお願いできない状況がある。その場合は1日前、2日前にごみ捨てをすることがあるが、ステーションやボックスの状況によってはその方法が難しいこともあるので、きちんとしたステーションやボックスがある安心した社会の実現のためにも、自治体に頼ることなく、行政が設置・整備をしてほしいと思う。</p>	<p>高齢者のごみ捨ての問題は喫緊の課題として認識している。実情をよく理解して、皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。</p>
<p>地域の問題について、市と地域、双方が話し合える機会を作っていただけるということで、協働してこの課題に取り組んでいきたい。検討の結果、報告できるものがあれば、まちづくり会議で報告をしていただきたい。</p>	<p>待つ行政ではなく、出向く行政に変えていかなくてはならないと考えているので、ぜひ対話の機会を作っていきたい。</p>

## 次期城山地区まちづくり会議の構成団体及び選出人数

構成団体 (分野等)	選出人数
地域関係	7名以内
保健・福祉関係	6名以内
防犯・防災関係	3名以内
産業・経済関係	5名以内
教育関係	6名以内
有識者	3名以内

※城山地区まちづくり会議会則第5条関係

# 城山地区まちづくり会議委員名簿

任期：令和4年4月27日～令和6年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	専門部会※
1	地域関係 (7)	城山地区自治会連合会 (会長)	代表	コジマ モリオ 小島 盛生	
2		城山地区自治会連合会 (副会長)	部会長	ハヤシカズヒロ 林 和博	① 部会長
3		城山地区自治会連合会 (副会長)		ナカノ ヒデト 中野 秀人	②
4		城山地区自治会連合会 (川尻小学校区)		イウヱ コウイチ 井上 貢一	②
5		城山地区自治会連合会 (湘南小学校区)		ニシカワ マサユキ 西川 正行	①
6		城山地区自治会連合会 (広陵小学校区)		アンザイ タケシ 安西 忠義	①
7		城山地区自治会連合会 (広田小学校区)	副部会長	オハラ タケヒロ 小原 貴弘	② 副部会長
8	保健・福祉関係 (5)	城山地区社会福祉協議会		イウヱ アキラ 井上 章	①
9		城山地区民生委員児童委員協議会		ツグノ ケイコ 菅野 敬子	①
10		城山地区シニアクラブ連合会		カネコ ヒロオ 金子 宏夫	①
11		城山ボランティア連絡会	副部会長	ソウダ マリユ 宗田 真理子	① 副部会長
12		城山地域包括支援センター		フジセ カオリ 藤瀬 香理	①
13	産業・経済関係 (2)	城山商工会		ヒラグリ フミオ 平栗 文夫	②
14		城山観光協会		サクライ カオル 桜井 かおる	②
15		相模原法人会 (津久井第1支部)			
16	防犯・防災関係 (2)	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		オノデラ ヨシユキ 小野寺 義行	①
17		相模原市消防団北方面隊		タノクラ タカヒコ 田野倉 隆彦	①
18	教育関係 (5)	城山公民館運営協議会	副代表	タカノ アサヒ 高野 朝枝	②
19		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		タカイ カオル 高井 かおる	②
20		城山体育振興協議会		オサダ ヒサシ 長田 尚	②
21		城山地区小中学校長情報連絡会		イウヱ ナホ 井上 成子	②
22		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャクラブめいぷる		カタクラ リエ 片倉 理恵	②
23	有識者 (2)		副代表	ソネ テツオ 曽根 哲男	①
24			部会長	カネコ ナオミ 金子 直美	② 部会長

## 専門部会欄

- ①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会
- ②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

## 高齢者とともに築き支える地域づくり部会 検討事項

### 1 湘南小学校区（小倉地区）まちかどウォッチング（12/9 実施）について

- ・意見
- ・反省点
- ・次回に向けた改善点

### 2 広陵小学校区（谷ヶ原・城山地区）まちかどウォッチング（1/27 実施予定） 実施方法の検討

- ・参加者募集チラシ
- ・日時、場所、ルート等
- ・その他

## 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会の取組について

### 1 佐原氏との打合せ結果について

- 令和5年12月21日に臨時部会を開催し、城山地区子ども会育成連絡協議会代表の佐原氏にも参加していただき、これまでの部会における以下のような検討内容を伝え、取組に対する協力を求めた。

- ・ 3つの要素「地域間・異年齢・世代間の交流」「子どもたちの主体性を育む」「地域への愛着心を育む」を取り入れた取組を実施する。
- ・ 初年度はモルック等の遊びやスポーツを通じて子どもたちが集まり交流できる場を設け、子どもたちから出される意見を聞きながら次回以降の取組を決める。
- ・ 3年間は地域活性化事業交付金を用いて段階的に発展させて事業を実施し、その後は城山地区子ども会育成連絡協議会による事業の自立運営を目指す。

- これに対して、佐原氏からは承諾をいただき、令和6年度に協働で事業を実施することとなった。
- 事業の全体イメージは令和6年度に一度、城山地区の小学生を対象とする交流イベントを開催し、その中で、令和7年度以降に実施する子どもたちの主体性が発揮される事業について、検討を行うこととなった。
- 令和6年度の具体的な取組としては、令和6年12月7日（土）の午前、川尻小学校グラウンドで城山地区全体の小学生を対象に、モルックを始めとする外国の遊びやスポーツを通じて地域間・世代間の交流を図る内容としている。

### 2 事業実施方法等の検討（令和6年度地域活性化事業交付金へのエントリーに向けて）

- 事業内容

- 日時、場所

- 事業計画等

- ・ 事業計画
- ・ 収支予算
- ・ その他（参加費等）

- 事業体制

- ・ 実施主体
- ・ 検討体制
- ・ 実施体制
- ・ その他

※ファシリテーターの要否

○参加者募集

- ・募集方法
- ・チラシ作成
- ・チラシ配付

○その他